第１号議案

令和２年度 事業報告

１．通　常　総　会

第61回通常総会は，令和2年5月22日（金）アルカディア市ヶ谷において開催した。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により，会場出席者は本工学会役員関係者に限定して開催した。出席者は委任状とも1,432名で，定款第17条に規定する定足数に達した。

定款第15条の定めにより，本総会の議長は会長がこれにあたるとしており，井上会長を議長とし，議事の審議にあたった。

(1) 議　　事

議事録署名人については，定款第19条により，議長および議長が指名する出席者2名以上としており，出席正会員の中から阿波野昌幸氏および前田晴人氏の2名が指名され，令和元年度事業報告，同収支決算報告，役員改選はいずれも原案どおり承認議決された。

また，令和２年度事業計画，同収支予算についての報告があり，いずれも了承された。

(2) 名誉会員推挙

大浦　隆殿，中村一樹殿，森田雄三殿が名誉会員に推挙された。

(3) プレストレストコンクリート工学会賞授与

令和元年度（第47回）授賞は，論文賞2件，作品賞6件，技術開発賞1件，施工技術賞3件の計12件である。

○　論文賞

- 電磁的入力方法により励起されるシースおよび鋼棒の電磁場応答を用いたＰＣグラウト充填評価手法に関する基礎的検討
  （会誌61巻6号）
  服　部　晋　一　殿
  木　部　大　紀　殿
  寺　澤　広　基　殿
  鎌　田　敏　郎　殿

- 光ファイバを用いたＰＣ張力計測技術のグラウンドアンカーへの適用
  （第27回シンポジウム論文集）
  曽我部　直　樹　殿
  今　井　道　男　殿
  中　上　晋　志　殿
  早　川　道　洋　殿

○　作品賞

（土木部門）

- 鷲見橋
  中日本高速道路㈱ 名古屋支社　殿
  三井住友建設㈱　殿

● 新名神高速道路　菰野第二高架橋　　中日本高速道路㈱ 名古屋支社　殿
㈱ピーエス三菱・㈱富士ピー･エス特定建設工事共同企業体　殿

● 楊梅山高架橋　　西日本高速道路㈱ 関西支社　殿
三井住友建設㈱・㈱富士ピー・エス・極東興和㈱特定建設工事共同企業体　殿

(建築部門)

● NIPPO本社ビル　　㈱NIPPO　殿
㈱日本設計　殿
NIPPO・大日本土木建設工事共同企業体　殿
オリエンタル白石㈱　殿

● カンダホールディングス本社　　カンダホールディングス㈱　殿
㈱竹中工務店　殿
㈱ピーエス三菱　殿

● 芦屋ベイコート倶楽部　ホテル＆スパリゾート　チャペル棟
リゾートトラスト㈱　殿

○ 技術開発賞

● ワッフル型ＵＦＣ床版　　阪神高速道路㈱　殿
鹿島建設㈱　殿

○ 施工技術賞

● ＵＦＣホロー桁を用いた鉄道橋の急速架け替え技術　　京王電鉄㈱　殿
大成建設㈱　殿

● 錐ヶ瀧橋の拡幅　　中日本高速道路㈱　殿
三井住友建設㈱　殿

● 高知自動車道　新宮IC～大豊IC間災害復旧工事
西日本高速道路㈱　四国支社　殿
鹿島建設㈱　四国支店　殿

以上の賞について，阿波野副会長より選考結果が報告された。授与式は省略し，受賞者には賞状と副賞として記念盾がそれぞれ贈られた。

２．理　事　会

通常理事会を10回（8月，2月を除く毎月），臨時理事会を1回（5月）開催した。4月，5月および6月はメール審議にて，7月以降はオンライン会議にて開催した。

議事録要旨は会誌の工学会記事欄に記載しており，省略する。

３．会誌等の発行

会誌は隔月に6回計21,150部を発行した。

４．委　員　会

【常設委員会】

(1) 総務委員会

総務委員会をメール審議にて2回（4月，6月），オンライン会議にて4回（7月，9月，12月，3月）開催した。4月は新型コロナウイルス感染拡大防止への対応，6月はオンライン会議システムの導入，7月は役員の職務分担，9月は主催行事の実施について審議を行った。12月は役員人事について検討を行い，3月は役員人事，名誉会員推挙，令和3年度事業計画案および同収支予算案を審議した。

(2) 会誌編集委員会

委員会を11回（8月を除く毎月）開催した。4月，5月および6月はメール審議にて，7月以降はオンライン会議にて開催した。会誌「プレストレストコンクリート」を年度6回発行した。第62巻4号，6号，第63巻2号は特集号とし，それぞれ「建築特集」,「道路橋の維持管理・更新」,「鉄道とプレストレストコンクリート」を企画特集した。

(3) シンポジウム実行委員会

委員会を5回，総務・広報・学術・現地ＷＧを合計14回開催し，第29回シンポジウムの企画と運営を行った。当初，群馬県高崎市のＧメッセ群馬で開催を予定していたが，7月6日開催の委員会においてオンライン開催形式（オンデマンド配信）への変更を決定した。初めてとなったオンライン大会を終えて，12月の委員会で総括を行い，参加者および実行委員へのアンケート結果などをもとに次回に向けた議論を行った。令和3年1月からは北海道函館市の函館アリーナで開催する第30回シンポジウムの準備に取りかかった。

(4) ＰＣサステナビリティ委員会

サステナビリティ宣言に基づく本工学会の今後の活動について議論を進めるため，委員構成を見直す方針とした。

(5) ＰＣ技術規準委員会

委員会を2回，幹事会を2回開催した。

1) ＰＣ斜張橋・エクストラドーズド橋設計施工規準改訂小委員会

ＰＣ斜張橋・エクストラドーズド橋設計施工規準改訂小委員会は，委員会を2回，幹事会

を5回開催し，小委員会内およびＰＣ技術規準委員会内での意見照会を経て改訂原稿（案）を作成した。

2) ＰＣ橋プレキャスト工法技術規準作成小委員会

ＰＣ橋プレキャスト工法技術規準作成小委員会は，委員会を1回，幹事会を4回開催し，規準作成方針などに関する討議，規準の作成，小委員会内での意見照会を行った。

(6) ＰＣ鋼材委員会

高機能ＰＣ鋼材にアラミド繊維や炭素繊維を加えた各種緊張材，および定着システムやシースを組み合わせたＰＣケーブルシステムについて，その機能や特徴，適用事例，試験実施例，関連基準・指針類について体系的にとりまとめた資料「高機能ＰＣ鋼材とそのシステムに関する技術資料」を完成した。また，ＰＣケーブルの張力計測技術に焦点をあて，磁歪法，高次振動法，光ファイバを埋め込んだＰＣ鋼材等について，その特徴や適用事例等の紹介および討議を委員会にて行った。その他，ＰＣ鋼材に関連する規準類に関して，JIS G3109 ＰＣ鋼棒の改訂内容が委員会にて報告された。

(7) ＰＣ技士委員会

委員会を1回，各小委員会を7回開催し，第27回プレストレストコンクリート技士試験に関する諸準備を整え，令和2年10月18日（日）に東京，大阪，福岡の3会場において一斉に試験を実施し，12月10日に合否の判定を行った。

(8) コンクリート構造診断士委員会

委員会を1回，各小委員会を2回開催した。受験者および更新登録者を対象にｅラーニングによるコンクリート構造診断技術講習を実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止を図るため，令和2年7月12日（日）に東京，大阪，福岡の3会場で実施を予定していた第14回コンクリート構造診断士試験の中止を決定した。

(9) ＰＣ技術講習会委員会

委員会をオンライン会議にて1回開催した。令和3年6月に予定する第48回ＰＣ技術講習会の開催方法について十分な審議を行い，オンライン形式（オンデマンド配信）の開催を決定した。プログラムは，全国9地域の有識者による特別講演とテキスト講演題目6題を設定した。

(10) 国際委員会

1) 国際対応小委員会

「ＰＣ工学会の国際化を進めるための企画・提言を行うこと，ならびに日本のＰＣ技術を海外へ情報発信すること」を目的に，令和2年度は以下の活動を行った。

①工学会英文ホームページの更新

②海外学協会との連携について検討

③日本のＰＣ技術の海外普及策等についての検討

・規準類の英語化および海外への普及についての検討

・ＰＣシンポジウムの国際化についての検討

④ *fib* Commission 1，*fib* Commission 5に参加

⑤ＰＣシンポジウムの海外からの特別講演者招聘計画

⑥ＰＣ技術講習会テキストの作成

2）国際活動関係

① *fib* Presidium

2020年6月5日,6日,そして,2020年10月15日,13日,オンラインで開催されたPresidiumに春日昭夫理事が出席した。

② *fib* 総会

2020年10月11日にオンラインで開催された総会に，下村 匠常務理事，中村 光理事，春日昭夫理事が出席し，春日理事が *fib* 次期会長に選出された。

③ *fib* 理事会

2020年10月10日,11日にオンラインで開催された理事会に，下村 匠常務理事，中村 光理事，春日昭夫理事が出席した。

④ *fib* 委員会

2020年5月28日，29日，2020年10月8日，9日，2020年12月10日，11日，オンラインで開催された *fib* モデルコード2020の委員会，Commission 10のTG10.1に春日昭夫理事が出席した。

⑤ *fib* シンポジウム

2020年11月22日～24日，上海シンポジウムがオンラインで開催され，春日昭夫理事が基調講演をおこなった。

⑥ *fib* Webinar

2021年1月20日，オンラインで実施された *fib* のFloating Structure Webinarで春日昭夫理事が *fib* 会長として開会の時にプレゼンテーションを行った。

(11) ＰＣ工学会賞選考委員会

第48回（令和2年度）プレストレストコンクリート工学会賞選考のため，2回の委員会を開催した。令和3年3月30日開催の第2回目の委員会の討議を経て,論文賞1件,作品賞5件（土木部門2件，建築部門2件，改築・改修部門1件），技術開発賞1件，施工技術賞3件を受賞候補に選出し，これを4月度理事会に答申した。

(12) 公募研究課題選定委員会

新たな研究課題を公募した結果,1件の応募があった。公募研究課題選定委員会で以下の公募研究課題について審査し，採用することを3月度理事会に答申した。

研究課題名：浜松町駅旅客ホーム上家解体に伴う調査

(13) ＰＣアーカイブス委員会

会誌62巻1号より会誌62巻6号まで「ＰＣの先駆者たち（人物編)」6名の短期連載を行った。冊子「ＰＣの先駆者たち（人物編)・(企業編)」を発行するため，3月に編集社に入稿した。また，第48回ＰＣ技術講習会の講演題目「ＰＣアーカイブ「第一大戸川橋りょう」」のテキスト原稿の執筆校正を行った。

【公募研究委員会】

(1) ＰＣ複合津波防災構造委員会

委員会を1回開催した。3か年にわたる活動成果を広く公表するため，5月にセミナーを東京にて開催する予定であったが，新型コロナウイルス感染拡大防止を図るため，延期とした。12月に改めてオンライン（ライブ配信）で開催することを決定した。1月に委員会活動の最終報告書を取りまとめ，ＰＣ構造を活用した津波防災に関する提言を行って委員会を終了した。

【受託研究委員会】

(1) 連続繊維補強材のＰＣ構造物への適用に関する委員会

連続繊維補強材（ＦＲＰ）を用いた構造物の試設計やライフサイクルコスト計算を実施して，本材料の適性・優位性を示すほか，試設計から確認された課題，傾向を指針へフィードバックして,「繊維強化ポリマーのコンクリート構造物への適用に関する設計・施工指針」を9月に策定した。指針の発刊に伴う講習会をオンライン（オンデマンド配信）で2月に開催するため，幹事会を2回開催した。

(2) 既設ポストテンション橋の再生・補修・補強検討委員会

変状の発生およびそのおそれがある既設ＰＣポストテンション橋の診断および対策の方法に関する技術指針を作成することを目的に，委員会2回，幹事会4回を開催し，技術指針について討議した。対策方法のうち，とくにＰＣグラウトの再充填工法および外ケーブル補強工法については，現行の規準がないため，これらの工法の性能に関わる要求事項および性能照査方法を明らかにするとともに，当該工法を既設ＰＣポストテンション橋に採用する場合の設計・施工法について審議した。

５．講習会等事業

(1) 第48回ＰＣ技術講習会

6月に全国9会場で開催を予定していた第48回ＰＣ技術講習会は，新型コロナウイルス感染拡大防止を図るため，開催中止とした。今回予定した講習会プログラムは来年度に延期することとした。

(2) プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム

「第29回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム（高崎)」は，新型コロナウイルス感染拡大防止を図るため，現地高崎会場での開催を取りやめ，オンライン（オ

ンデマンド配信）で令和2年10月29日（木）から11月4日（水）の7日間にわたり開催した。

富岡製糸場総合研究センター所長の結城雅則氏，群馬県立女子大学群馬学センター教授の松浦利隆氏による特別講演と，169題の論文，報告の発表が行われ，優秀講演賞18名を表彰した。技術展示およびワークショップは中止した。開催期間中，参加者にＷｅｂアンケートを実施した。

参加者は495名で，法人正会員，賛助会員のほか，関係諸団体を合わせて45団体から後援があった。

(3) ＰＣ津波防災セミナー　－ＰＣ技術による津波防災構造物の提案－

公募研究ＰＣ複合津波防災構造委員会の最終成果報告会として，5月27日に東京で開催する予定であったセミナーは，新型コロナウイルス感染拡大防止を図るため，12月3日（木）に延期してオンライン（ライブ配信）で開催した。セミナーでは，津波から背後地を守るための堤防や防潮堤を，ＰＣ複合構造を活用して効率的・効果的に整備するための手法を提案し，想定する津波・背後地の状況・建設地点の地盤条件などに応じたケーススタディについて報告した。また，津波防災やグラウンドアンカーによる防災技術など最新情報も提供し，わが国の防災・減災に寄与することでＰＣ技術のさらなる普及・活用を提言した。セミナー申込者は90名であり，講演報告集を事前に配布した。

(4)「繊維強化ポリマー（ＦＲＰ）のコンクリート構造物への適用に関する設計・施工指針」の発刊に伴う講習会

平成29年12月から活動を開始した「連続繊維補強材（ＦＲＰ）のＰＣ構造物への適用に関する委員会」の成果として，標記指針を令和2年9月に策定し，その発刊に伴う講習会を令和3年2月1日（月）から12日（金）までの期間，オンライン（オンデマンド配信）で開催した。講習会申込者は95名であった。指針の発刊部数は500部である。

６．資格認定事業

(1) プレストレストコンクリート技士制度

1) プレストレストコンクリート技士試験講習会

令和2年度のプレストレストコンクリート技士試験講習会を，令和2年9月7日（月），オンライン（ライブ配信）にて開催した。受講者は57名であった。

2) プレストレストコンクリート技士試験

令和2年度のプレストレストコンクリート技士試験を，令和2年10月18日（日）に東京，大阪，福岡の3会場において一斉に実施した。

受験申込者は246名で，試験の合格者は72名であり，会誌第63巻1号およびホームページに掲載発表した。

3) プレストレストコンクリート技士登録

令和2年度標記試験合格者の登録者は71名で，登録更新者は863名（更新対象者は950名）

であった。また，再登録者が26名あり，令和2年度のプレストレストコンクリート技士登録者は合計960名となった。その結果，令和2年度末の有資格者（登録者）は5,300名である。

(2) コンクリート構造診断士制度

1) コンクリート構造診断技術講習

コンクリート構造診断士試験に先立ち，任意受講のコンクリート構造診断技術講習（Ｗｅｂ上でのｅラーニング講習）を，3月1日から6月28日の期間，実施した。受講申込者は98名で，受講修了者は試験中止による影響で55名であった。

2) コンクリート構造診断士試験

令和2年7月12日（日）に東京，大阪，福岡の3会場において実施を予定していた令和2年度のコンクリート構造診断士試験は，新型コロナウイルス感染拡大防止を図るため，中止とした。

3) コンクリート構造診断士登録

令和2年度新規登録者は，試験中止により0名であった。コンクリート構造診断士の登録更新者は345名（更新対象者は371名）で，再登録者は0名であった。令和2年度末の有資格者（登録者）はコンクリート構造診断士1,262名である。

○事業報告に係る附属明細書について

令和2年度事業報告には，「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので，作成しない。

令和3年4月

公益社団法人　プレストレストコンクリート工学会